

アクセス遮断について の考察

2018年7月25日

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
(JPNIC)

- 本TFでは、ブロッキングという言葉で海賊版サイトへのアクセス遮断に関して議論がなされているが、これまでの会合を通じ、一番の論点であるブロッキングの定義や共通理解がないままに議論が進行している。
- 権利者からの「海賊版対策のためにアクセス遮断をして欲しい」という要請に対して、通信事業者や技術者が適切な範囲で実施できるアクセス遮断には、さまざまな遮断点と手法が存在する。これらの手法とそれに要するコストが明確にせぬまま議論を進めても、漠然とした議論に終始してしまう。
- JPNICはインターネットの安定を常に意識してきた。アクセス遮断には、さまざまな手法があり、かつ呼び方が必ずしも一定していない。アクセス遮断を検討せざるを得ないとしても手法として適用箇所が複数存在するため、ここでは手法をまとめて「アクセス遮断」と呼称し、整理・分類して提示する。

①	教育・啓発により、“見てはいけないサイト”と認識し、そもそも見ない
②	ブラウザ等によるフィルタリングによる抑止(検索ワード、接続先、コンテンツ)
③	プラットフォームによる検索結果の抑止
④	権威DNSサーバによるドメイン名の無効応答、ドメイン名の停止
⑤	DNSフルリゾルバ(キャッシュ)による応答の停止
⑥	CDNによるDNS応答の停止
⑦	IPルーティング、Access Control Listによる接続先IPアドレスの接続断
⑧	https SNIによる接続先ホストの接続断
⑨	特定のURLの接続断
⑩	サイト、CDNの応答の抑止
⑪	Deep Packet Inspection等による特定コンテンツの流通阻止